

福祉有償運送開始から1年半

制限の多い福祉有償運送

普通免許 1 種の運転手が高齢者・障害者等の移動困難な方々を病院などに送迎できるように、法律ではじめて許可されたのが 2006 年 4 月。福祉有償運送のスタートです。

ただし、出来るようになったといってもこれには多くの制限がついています。

- ・ 利用者は介護保険(予防を含む)の認定者、または障害者手帳をお持ちでお独りでは公共交通機関を利用困難な方。
- ・ 移動サービス団体の会員である事。
- ・ 利用料は概ねタクシーの半額。
- ・ 運送団体は市が推薦した団体に限る。
- ・ 運転手は安全運転講習を受ける。
- ・ 運転手・車両の変更・追加等の届出が必要。

増えてこない担い手

この制度で登録した団体は更新手続きを 2 年毎に行わなければなりません。当会は 2008 年 3 月にこの更新の為に膨大な書類を国に提出しなければなりません。フォローアップ研修の修了書もその手続きの必要書類の一つです。今後新たに運転手として協力して下さる方は認定講習を受講する必要があります。

最近の利用の問い合わせが包括支援センターを通じて増えています。しかし、いろんな制度制限の為に、利用を断念される方もありますが、利用者は徐々に増加傾向にあります。ところが、担い手の運転手不足や制度制約の為に登録更新をしない団体も現れています。

フォローアップ研修開催

福祉有償運送の安全運転講習

移動ネットあいちの本年度のフォローアップ研修は杖歩行と車椅子の利用者を想定した移乗介助の研修です。9月9日(日)と9月16日(日)に半日かけて一宮まごころで開催されました。

16日はどしゃぶりの雨。雨具を着ていただくところから始まり、雨具を脱いでいただくところまで、充実した研修となりました。

安全・安心の移動サービス

今回の研修では一宮まごころの運転手 16 名が受講しました。

車が動く前から、そして車が止まった後からも安心して利用していただける為に。



雨の中、移乗介助する受講生

雨具の上からでは支えるベルトも持てず、力任せの介助になることもありました。

視界も悪く、滑りやすく、濡れないように素早くは出来ない介助でしたが、実りは多かった。

利用者さんに雨具を着ていただいている受講生



左半身麻痺を想定した利用者の方に手際よく着ていただいています。

このあと介助者も自分の雨具を身につけて車へと移動です

ミニデイだより



みんなで歌おう

♪「見上げてごらん 夜の星を
小さな星の 小さな光が
ささやかな幸せを 祈ってる。」♪
11月の「まごころふれあいまつり」で参加者全員で大合唱する曲を、いち早く、練習しました。

「ええねえ。ほんまにええ歌やわ」
「昔の歌は、詞がいいよ」とKさん。
おひとりづつマイクを回していくと、皆さん心をこめて歌っていただきました。
「坂本九ちゃん、飛行機で亡くなったな」
「あれは、お盆だったとちがうん？」
次々と、その当時の回想が始まりました。
「九ちゃんの歌が流行した昭和 38 年は I さんは 47 歳だったよ。

私、15歳の青春まっただ中」とスタッフ。
歌は、その時代の背景があり、思い出話が尽きませんでした。

I さん 91 歳の鼻歌が突然聞こえた。
♪「こまっちゃうな、デートに誘われて、
どうしよう、まだまだ、はやいかしら。」♪
「ほー。I さん、何でも知ってるな」
T さんが、びっくり。皆さんもびっくり。
歌で、いきいき。みんなで歌いましょう

金華山親子登山参加者募集

一宮まごころでは 10 月 14 日(日)に開催される金華山親子登山(児童デイご利用のご家族主催)に協力しております。

親子で参加される方、ボランティアで協力して下さる方を募集しています。共に楽しい山歩きをしてみませんか?

お問い合わせ 一宮まごころ事務局
(電話 0586-73-8707)

第16回全国ボランティアフェスティバルあいち・なごや



報告

9月22日・23日において「第16回全国ボランティアフェスティバルあいち・なごや」が開催されました。

「愛を知り 夢を育む ボランティア」をメインテーマとして愛知県芸術劇場や名古屋国際会議場をメイン会場にまた、ブロック大会として近隣の 6 市町村でも同時開催されました。

～サロンは気軽に立ち寄れることが重要～

当会は、23日の協賛事業としての「第4回ふれあい・いきいきサロン全国研究交流会」に参加。全国からサロンにたずさわる 530 余名が集いました。平成 6 年からサロン活動を推奨されてきたルーテル学院大学教授の和田敏明氏の講演では、「サロンは、身近な地域で お喋りを楽しく過ごし 仲間づくり等 介護予防に繋がる精神的社会的効果がある。基本的には何もしなくていいんです。月 1 回から始めてください。特別なプログラムも無くていいんです。誰もが気軽に立ち寄れる場所が必要です。」と、ふれあいサロンにかかわるものにとって、とても勇気づけられるお話でした。

～分科会では活発な意見交換～

午後からは、高齢者サロン・子育てサロン・障害者サロン・共生型サロンに分かれての情報交換。これからサロンを立ち上げようとする方から、障害者が集えるような場所が確保できない悩みや、担い手不足、特に移動の手段のない方への送迎ボランティアの確保についての質問や、工夫など意見交換が行われました。人との出会いやつながりを大事にできるような、誰もがいつでも集えるサロン活動の必要性や、輪の広がりが確認できた分科会になりました。